

経営比較分析表（平成28年度決算）

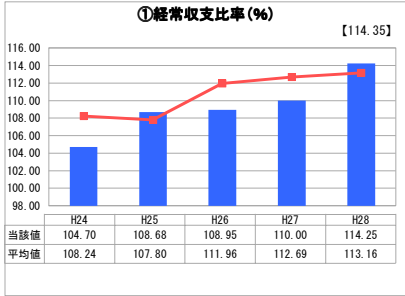
兵庫県 豊岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	53.49	99.96	2,635	

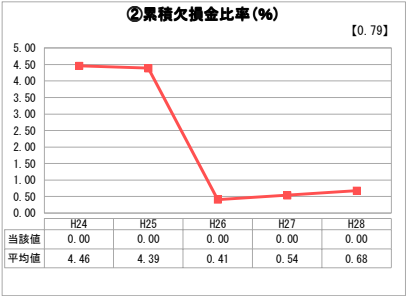
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
83,936	697.55	120.33
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
83,523	171.75	486.31

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成28年度全国平均

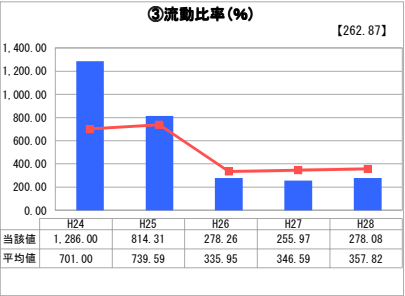
1. 経営の健全性・効率性



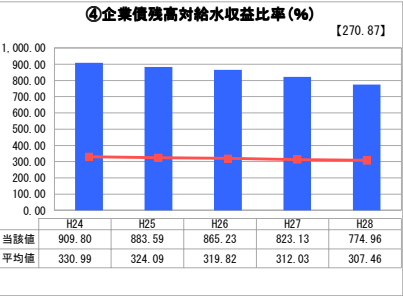
「経常損益」



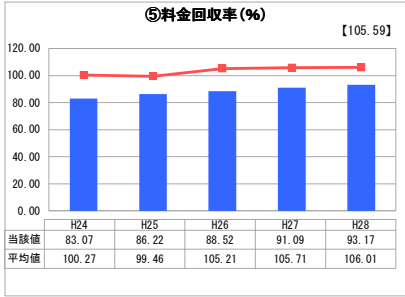
「累積欠損」



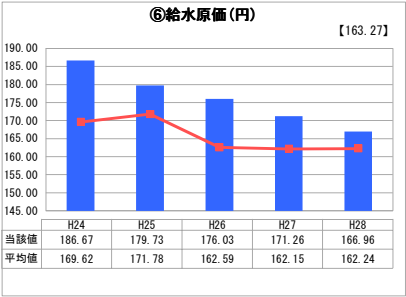
「支払能力」



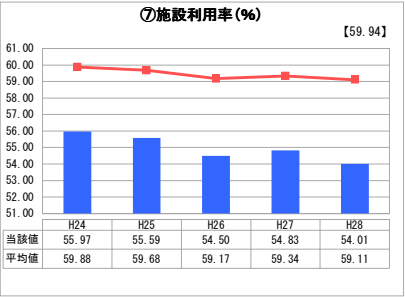
「債務残高」



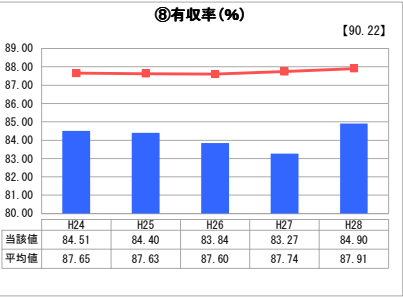
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

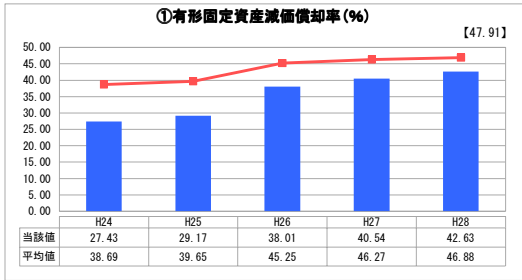


「施設の効率性」

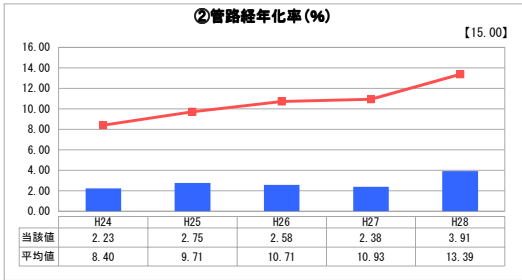


「供給した配水量の効率性」

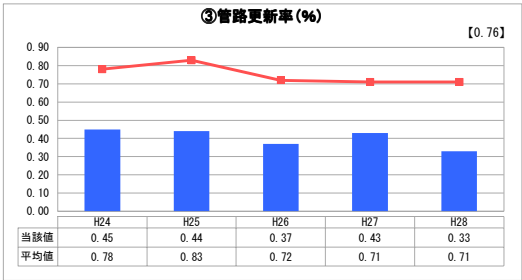
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、上昇傾向のうえ、類似団体平均を超え良好な状況である。
②累積欠損比率は、累積欠損金が発生しない0%を続けており、問題がない状況である。
③流動比率は、平成26年度から適用した新会計基準により、1年以内に償還する企業債を流動負債としたことで大きく低下し、類似団体平均を割り込んでいるが、平成28年度は278%あり、問題がない状況である。
④企業債残高対給水収益比率は、低下傾向にはあるが、類似団体平均の2.5倍程度の高い状態が続いている。この比率を低下させることが中長期的な課題と捉えている。
⑤料金回収率は、類似団体平均と比較して低い状況である。これは、総務省の繰出基準の考え方をベースにした繰入金が類似団体よりも多いためと推察している。近年は、給水原価の低下により、料金回収率は上昇傾向にある。
⑥給水原価は、類似団体平均よりもやや高いながらも低下傾向にあり、今後も費用の削減を図ってきたい。
⑦施設利用率は、水需要の減少から低下傾向にあるが、適切な規模への施設更新を進めることで、この低下傾向に歯止めをかけていきたい。
⑧有収率は、類似団体平均よりも低いのが、平成28年度は1.63ポイント上昇した。今後も、漏水箇所の調査を進め、問題のある配水管の更新を進めることで、有収率を上昇させていきたい。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似団体平均よりも低いとはい不上昇傾向にあり、年々老朽化が進んでいる。
②管路経年化率は、類似団体平均よりも低いのが、平成28年度は上昇し、法定耐用年数を超えた管路が増えていた。これは、老朽管更新よりも近年は漏水事故頻発箇所を重点的に更新していることが要因である。
③管路更新率は、平成28年度は前年度よりやや低下し、類似団体平均の5割に満たない状況である。この数値を上昇させるのが大きな課題と捉えている。

全体総括

経営の健全性・効率性については、経常収支比率は上昇傾向にあり概ね良好な状況であるが、今後の水需要の減少により収支状況は悪化するものと考えている。また、これまでの施設整備のために発行した多くの企業債残高を減少させていくことが中長期的な課題である。
老朽化の状況については、現在は類似団体平均よりも老朽化度合は低い状況であるが、近年は漏水事故頻発箇所を重点的に更新する方針で管路の更新を進めているため、今後しばらくはこれらの数値は悪化するものと考えている。
今後、人口減による水需要の減少は避けられない状況であり、将来を見据えた適切な規模となるよう管路・施設の更新を推し進めること、また漏水事故を減少させることで、施設維持管理費用の削減、施設利用率の向上、有収率の向上に努めていきたい。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。